

第 85 回 新制作展 スペースデザイン部 会場風景 (SD 通信 Vol.37 より)



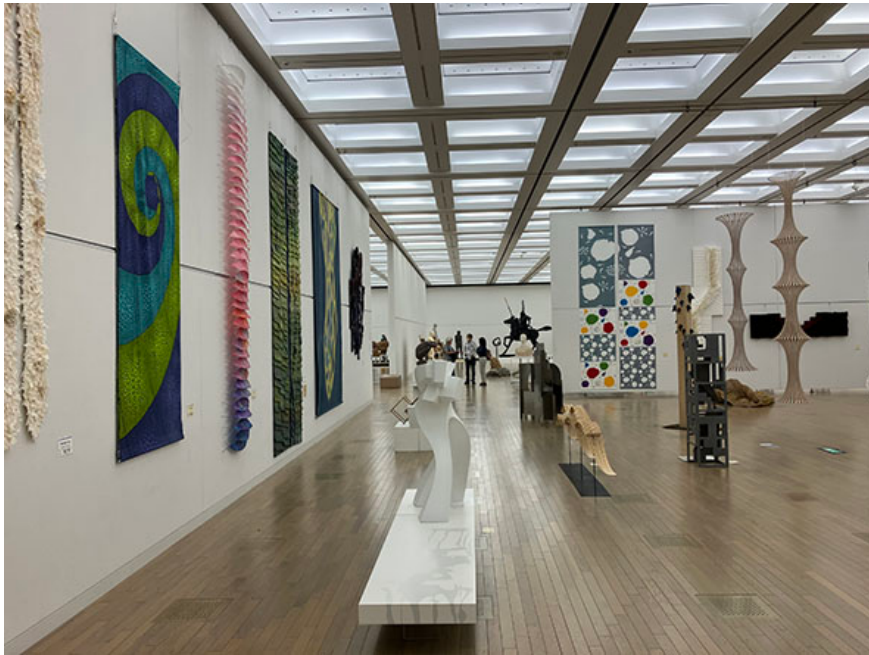
<スペースデザイン部展示会場入口>

スペースデザイン部から始まり、その先の彫刻部へと展示空間が続きます。
夕方暗くなる頃は入口壁面の照明でエントランス周辺の雰囲気が変わります。



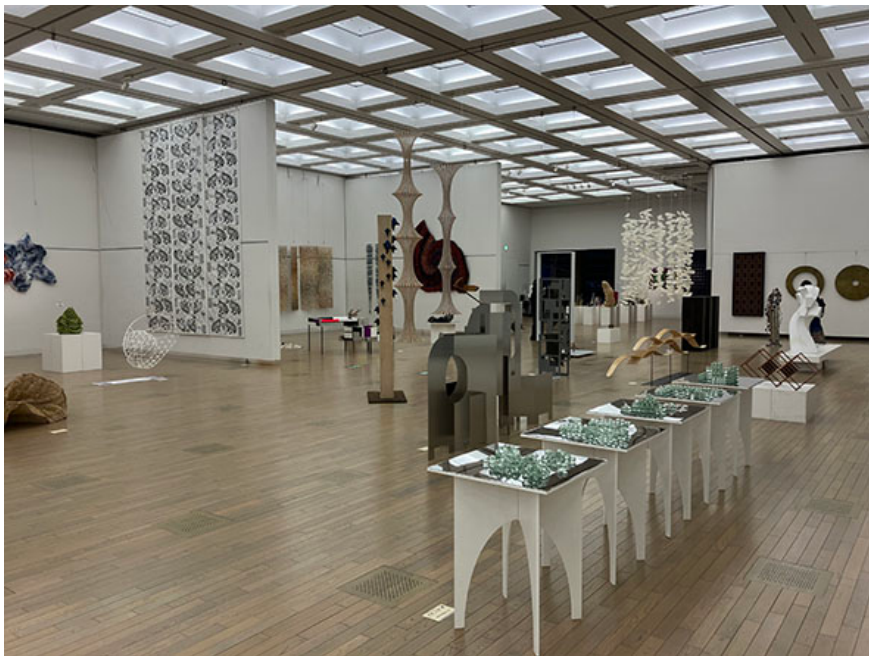
<ミニアチュール作品>

今回の展示では初めて入口の最初の空間に集められました。
様々な素材と形態が 35×35×65(cm)のサイズの白い台上に並びます。



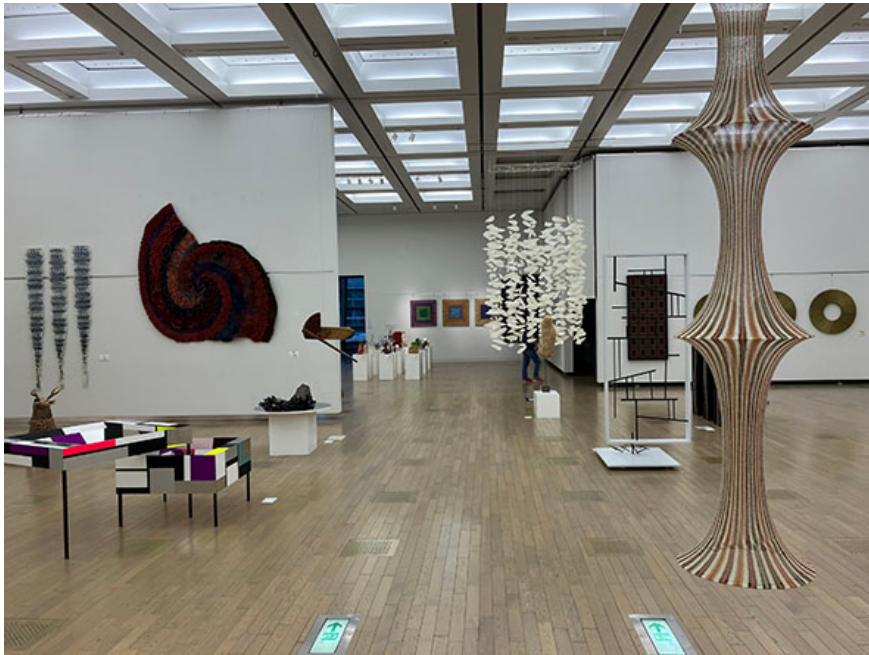
<会場風景>

中央の広いスペースから連続して彫刻部に繋がります。
SD 作品の視線の奥に彫刻作品が見えてきます。



<会場風景>

彫刻部から SD 部入口方向のアプローチ。毎年様々なパターンで会場構成を試みます。構成の仕方で作品同士の呼応の仕方が変わります。
今回は会場の奥まで見渡せるせいか、空間が少し広く感じます。



<宙吊り作品>

会場中央には宙吊り作品が並びます。床面、壁面、空中と、空間全体を使いスペースデザイン部らしい展示になっています。



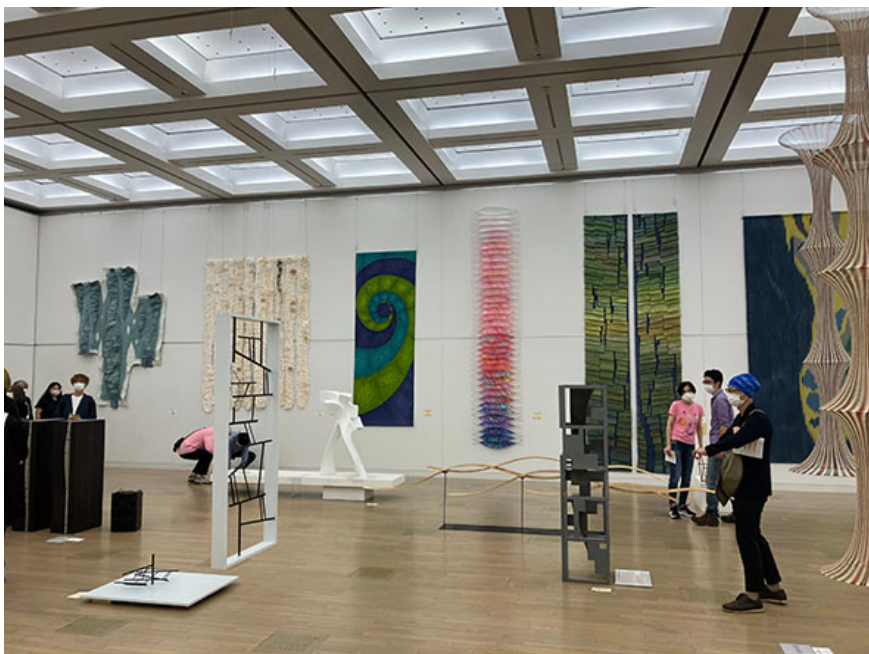
<コーナーの空間構成>

このコーナーには低めの壁面作品が並びました。
その為床と壁の作品がまるで対話しているように生き活きとした印象です。



<各ブースの作品群1>

生物モチーフの具象的な作品、幾何学的な構成作品など様々なスタイルの造形が並びます。



<各ブースの作品群2>

素材や形態の多様性に加えて、壁面作品には色彩のバリエーションが様々な表現され、空間に彩りのリズムを刻みます。



＜各ブースの作品群3＞

天井までの高さは約6メートル。普段中々得られないサイズの空間です。
 その中で壁作品と床の立体作品が呼応するように配置されています。
 展示作業では何度も検討されながら位置の変更を繰り返し配置決定に至ります。



＜暗室空間＞

遮蔽のロールカーテンで空間を仕切り暗い展示空間を準備しています。
 照明作品が空間内部で数点並びます。



＜野外展示空間＞

野外空間は、自然光、風、そして時に雨が降り、作品はその環境の中で表現されます。手前右側3点がSD部会員作品（野口真、伊藤哲、尾埜）左後方には彫刻部の野外作品が見えます。金曜日夜間開館（20時終了）では照明が入り、暗い中に作品が浮かび上がります。



＜野外から眺める休憩室展示作品＞

毎年1名の作家のスペシャルな空間になります。
今回は五十嵐通代さんが担当しました。

